



夏播きアブラナ科野菜の育苗期や生育初～中期において、ハイマダラノメイガ、アオムシ、コナガなどの防除を徹底しましょう

夏播きのキャベツやブロッコリー、ハクサイ、ダイコンなどで、育苗中や定植後または播種後の本圃初～中期に発生する主な害虫には、アオムシやヨトウムシ、コナガ、ハイマダラノメイガなどチョウ目害虫とアブラムシ類などがあります。

このうち、**ハイマダラノメイガ**（ダイコンシンクイムシ）の被害は、作物の芯が止まって生育不良や奇形となり、著しく商品価値が低下します。発生は年次により変動しますが、**高温で少雨の年には多発生する傾向**がありますので、今年も十分な注意が必要です。また、そのほかの害虫も発生を見逃していると、著しい被害になる可能性があります。

これらの害虫防除として、**現在、播種や定植時に植穴や株元に処理する粒剤や育苗の後期～定植前に育苗トレイなどに処理する残効期間の長い灌漑剤などがあり、使用する薬剤により持続期間は異なりますが、処理すると2週間～1か月くらい防除効果が期待できます。**その後は、**薬剤抵抗性害虫の出現を抑制するため、播種や定植時に処理した薬剤とは異なる他分類コードの有効薬剤でローテーション防除**することで、被害発生を大きく減少させています。

なお、近年、**IRAC 分類コード：28**（ジアミド系薬剤 **プレバソン、フェニックス**など）では、**コナガに対する防除効果の低下している圃場が確認されています。**しかし、これらの薬剤は**難防除のハスモンヨトウやオオタバコガなどの大型チョウ目害虫には高い防除効果があります。**このため、**コナガが問題になる地域では、分類コード 28 以外の薬剤でコナガを防除し、大型チョウ目害虫などには全ての有効薬剤でローテーション防除を行ってください。**

【育苗中における病害虫防除のポイント】

1. 育苗場所は常に清潔を保ち、**側窓や天窓など開口部に防虫ネットを張って**、害虫の侵入を防ぎます。育苗中は**適度なかん水に努め、生育に応じて株のずらしや、通風、採光を良好に保って健苗育成に努めます。**
2. 病害虫の発生を常に注意深く観察し、発生を確認したときは**早期に薬剤防除を行ってください。**

表1 主なアブラナ科野菜の播種時または育苗期後半～定植時に処理する害虫の主な防除薬剤（令和4年8月2日現在）

薬剤名	処理方法	キャベツ	ハクサイ	ブロッコリー	カリフラワー	ダイコン	分類
ベリマークSC	セルトレイ等への薬液灌漑	○	○	○	○		28
ジュリボフロアブル	セルトレイ等への薬液灌漑	○	○	○			28と4A
プレバソンフロアブル5	セルトレイ等への薬液灌漑	○	○	○	○		28
スタークル顆粒水溶性	セルトレイ等への薬液灌漑	○		○			4A
ダントツ粒剤	セルトレイ又は株処理、土壌処理など	○	○	○		○	4A
ジェイエース（オルトラン）粒剤	植穴処理、作条または株元散布	○	○	○		○	1B

注1) **各薬剤の対象害虫および処理方法は、対象作物により異なります。使用基準をラベルで確認し、適切に処理してください。**

注2) 表1と表2の分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 主なアブラナ科野菜の生育中における害虫の主な防除薬剤

（令和4年8月2日現在）

薬剤名	キャベツ	ハクサイ	ブロッコリー	カリフラワー	ダイコン	カブ	非結球アブラナ科野菜類	分類
ディアナSC	○	○	○	○	○	○	○	5
プレオフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	un
アフーム乳剤	○	○	○	○	○	○	○	6
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○	○	○	○	28
モスピラン顆粒水溶性	○	○	○	○	○	○	○	4A
コテツフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	13
グレーシア乳剤	○	○	○	○	○			30
パダンSG水溶性	○	○	○		○			14
トルネードエースDF	○	○	○		○			22A
アクセルフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	22B
トレボン乳剤	○	○	○		○			3A
カスケード乳剤	○	○	○		○		○	15
ファルコンフロアブル	○	○	○		○			18

注) **各薬剤の作物登録を記載しましたが、対象害虫や使用方法についてはラベルで確認し、適切に処理してください。**

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。